

ふれあい雪谷

平成21年

もみじ号

通巻第76号



コスモスの花言葉
調和 真心

(東中 M・Tさんの作品)

母校の思い出 36 「校歌に思う」

先日、ふと目が覚め、もう朝かなと思いついた時、なんだまだ3時。それから寝つかれない、やむをえず枕元のラジオにスイッチON。NHKのラジオ深夜便の「日本の歌、心の歌」番組で、昭和20年、30年の歌を作った作詞家、作曲家の歌謡曲を放送中だった。いろいろメロディが流れてきたが、その中で作詞・野村俊夫、作曲・古関裕而の作品が何曲かあった。その名前を聞いた時、ああ懐かしい少年時代を過ごした雪谷中学校の校歌を作詞、作曲した先生の名前だ。

当時、作詞家・野村先生は戦中「暁に祈る」、戦後は「湯の町エレジー」等を、また作曲家・古関先生は有名なハモンドオルガンの日本の第一人者。あの「鐘のなる丘」の主題歌「とんがり帽子」や「君の名は」など数多くの曲を世に送り出している有名な先生方だ。なんで有名な先生が雪中の校歌を、と思っていたが、後日先輩に聞いたところ、第一期生の中に野村先生のお嬢さんがいらして、その関係で校歌ができたことを知った。

卒業して何年だろう。えーもう57年。「光陰矢の如し」ついでこの間のように思い出されるが、子供や孫がお世話になり、校歌を歌い継ぎ今日まで来たのだから歳をとるのもしょうがない。

この間、一万数千人の卒業生を送った校歌。中学生時代は人生の年輪の中で短い通過点かもしれないが・・・

雪谷中学校校歌

(作詞・野村俊夫 作曲・古関裕而)

みどりの微風 さわやかに さわやかに
希望ヶ丘に 晴れわたる
伸びよ 正しく若木のように
光あふれる朝ぼらけ

と、すがすがしく歌った時代があるから今日があるのだ。小生にとって、心に残る曲の一つとしていつまでも大切にしたいと思う。

(東雪 永久保 鋤一)



【編集後記】

今年は冷夏でしたね。東京地方は梅雨明けという気象発表がありました。が、東北地方は梅雨明けがありません。秋にはいつてしまい、何とも妙な気候でした。今年はまだ政権交代の年でもあり、新型インフルエンザの予兆もなされていきます。秋号以降皆様からの投稿を委員一同楽しみにお待ちしております。皆様お身体に充分気をつけてくださいませ。

(小池 山下 雅己)

〔発行〕地域力推進雪谷地区委員会
〔編集〕ふれあい雪谷編集委員会
連絡先 雪谷特別出張所
大田区東雪谷三六二
電話 三三二九一五二
〔発行日〕平成二十一年十月一日
通巻第七十六号

ホームページ

<http://www.city.ota.tokyo.jp/nishi/yukigaya/index.htm>

サークル紹介 45 東中自治会囲碁教室

タテ十九目(モク)、ヨコ十九目、三六一目の盤面の上で、黒と白の陣取り合戦は興味深い。

古来、中国から伝えられた囲碁は戦国武将たちも戦の合間に楽しんだという。

私たちの囲碁教室は平成六年から始め、楽しみながら脳を活性化させ、お互いの交流を深め、健康を増進させるクラブです。

老若男女、高齢者、小中学生のみならず、多くの方々の参加をお待ちしています。

●日時 毎月第二・第四日曜日

午後一時より

●場所 東雪谷会館

●参加費 無料

お気軽にご参加ください。



見学は自由です。一度、会場に足を運んでみませんか。

黒白を結着つけて前進

ピンク彩(いろ)

(東中 菅野 哲男)

私の健康法35

剣道で鍛えられて

私はいつの間にか九十六歳になった。特に健康法なるものはないが、振り返れば幼少時は那珂川で泳ぎ、小学生の頃から剣道を始めた。無理をして半間の休学をしたこともあったが、剣道は続けた。兵隊には取られぬ体と信じていたが、剣道で鍛えたおかげか、均整のとれた体格として甲種合格!、太平洋戦争の一員として、一銭五厘(今の五十円はがき)の赤紙で戦地に駆り立てられた。

昭和二十一年七月、大陸から浦賀の港に戻るや、DDTの白い粉を頭からかけられ、焼け野原となった故郷水戸へと身一つ

で帰った。その後は日本復興のためと勤め、七十過ぎまで働いた。そして第三の人生の今は、青年期に勉強することができなかった歴史や古典文学等を学んでいる。また、地域のお仲間と共に我家での読書会も定期的に行っている。足腰は衰えてきたが、医師との交流も欠かさず、規則正しい生活に加えて、笑顔と感謝を忘れずにと心がける昨今である。

(池の台 柏 頼信)



災害は各自の心掛けとご近所の助け合いで防ごう 自治会と防災の関わり方



“社会を明るくする運動”
シンボルマーク

第59回 「社会を明るくする運動」 雪谷地区住民集会に参加して

去る7月18日(日)午前10時より11時30分まで雪谷小学校体育館に於いて～防ごう犯罪と非行 助けよう立ち直り～第59回「社会を明るくする運動」雪谷地区住民集会が開催された。平成21年度大田区のテーマは「ふれあいは 朝のひとこと みんなの笑顔 生きる力を育てよう」で、約170名の参加者が集い、司会・永久保宣義(保護司)氏の進行で始まり、各関係団体の会長より挨拶。また、各自治会長・PTA会長も紹介された。講演は「学び合いから 明るい社会を」と題して、雪谷小学校の脇田廣校長より、約1時間のお話で主な内容は、

“18年間の教師生活の中で5～6年生の担任が8回あり、その中で印象に残ったことがありました。K君は地域の人も知っているくらいの悪さをする子供でした。ウソはつく、テストで0点の答案用紙はよその家のポストに入れるなど、3～4年生では厳しい先生が担任でしたので、追いつめるとますますひどくなりました。5年生でこの子の担任になり、それなら自分からは声を掛けられないように、でも、いつも君のことを見てますよ、という態度で接し、あるとき、理科の時間に誰もが気がつかないことを見つけたのを褒めました。するとだんだん自信がつき、発表もするようになり、自分から学級委員に立候補したり、みんなが注目してくれたのです。周りの子もK君に対する認識が変わり、地域の人も、ご両親もこの子に対する見方が変わってきました。子供は大人の姿を見て育ちます。失敗を繰り返し経験して学んでいくのだと思います。将来、雪谷を背負っていく子供たちです。地域の方々もぜひ、行事以外でも学校に来て、実際に子供の姿を見て欲しいと思います。”

このような話を3例ほどされ、先生のお話は終わった。講演のあと質疑応答が交わされ、盛会のうちに終了となった。

(取材/東雪 西本頼雄)

美しい環境づくり 32

積み重ねが作るよりよい環境

ここ笹丸自治会では、年間を通してウィークデイに会員による安全パトロールを行っている。私は今春からこの安全パトロールに参加させてもらい、ゆっくり歩き、周囲に気を配るパトロールならではの新たな楽しみを見出した。それは、各戸が丹精している草木が語る季節の声を聞くことである。戸建てが多く、庭や玄関脇には木や花があり、道路を通る人々の目を楽しませてくれる。駅前広場によくあるような型にはまった花壇ではなく、各人が工夫しているだけに、統一感がない分各々住人の人柄にも思いを至らすことになる。こうした一軒一軒の草木に対する愛情と努力が積み重なって、地域の環境を維持向上させていることがつくづくと感じられる。

最近聞いた話で、5階建ての建物を造った人が地域環境に配慮して十二分な植栽をしたところ、この植栽部分に対し、建物とは別立てで固定資産税が付加された。植木屋さんに払う手入れ代金に加え、さらに税金ではたまらないので植栽を廃止することも考えているとのこと。

CO₂対策で環境に負荷の少ない商品に補助金を出す最近の政策から見れば、緑を保全している人々にも優遇されて良いのではないかとと思われる。

(笹丸 荒井 啓治)

上池上自治会の自己紹介



上池上自治会は、環七の夫婦坂からバス通り沿いに第二京浜の本門寺裏までの大変に広い面積の自治会です。住所では上池台5丁目、3丁目の一部、東雪谷5丁目の一部、仲池上1丁目の約半分、2丁目の大部分です。

最寄の駅は長原、洗足池、西馬込ですが、いずれの駅も徒歩10分以上かかり、バスが頼りの坂の多い地域です。

以前は、野菜畑や植木畑など緑豊かな中に、大小の工場や学研本社がありました。今はすっかり様変わりして、マンションが大変に多い地域になりました。

世帯数は本年4月に6,500世帯を越え、まだまだ増加の勢いで、大田区でダントツの一番になりました。

事業については、防犯活動・防災活動に特に力を注いでいるところです。

防犯パトロールは、役員をはじめ防犯部員が、黄緑色のジャンパーを着て、自治会内の全域を巡回しています。

防災対策については、避難所運営協議会を組織し、大森十中で毎月定例会を開催しています。もし大災害が発生し、避難者が多く発生したときのための受入れ態勢についての対策を立てています。

5年ほど前から行っている夏休みラジオ体操会は、大勢の大人や小学生が、早朝十中の正門に集まるようになり、明るい挨拶が飛び交う地域になりました。大世帯数で、お隣同士のつながりは希薄になりがちですが、これからも、新旧住民、世代を越えて、明るく楽しい自治会になるよう、力を合わせて活動してまいります。

(上池上 海老澤 信吉)

池上線の走る街



昭和40年代、私が学生の頃、私は石川台から五反田まで池上線で通学していました。その頃の電車は、東急の他路線で使い古された車両で、歌詞曲「池上線」の歌詞にある、隙間風が吹き込んでくるような電車でした。駅と駅の間が短く、三

両編成で、発車すると程なく次の駅に着くのは今も変わりません。しかし、そんな池上線沿線も昭和3年頃の開業当時には、田園調布周辺の新興住宅地として分譲され、都心部から移り住んで来た人々で、現在の田園都市線が開業した頃の多摩プラーザ周辺に代表されるような洒落た雰囲気があったそうです。それから80年余りが経ち、他の路線が「相互乗り入れた、路線延長だ」という中、池上線は五反田と蒲田の間を、時代の波に取り残されたように頑なに、そして毎日毎日忙しさの中で過ごしている現代の私たちに「のんびり行こうよ」と語りかけるように、今日もトコトコと走り続けています。

最近は最新鋭の電車が投入され、ワンマン運転にもなりますが、文教大付属小学校付近から見下ろす石川台駅の光景は、昔と変わらず、懐かしい昔を思い出させてくれます。

(石川台 早川 正博)

正しい警報だったら、折角の情報が無駄になり、大惨事となるどころでした。一人一人が災害に対する意識を持つことが大切ですね。

(南雪谷 松本 克二郎)

